

連する典型的な形態変化を示した。

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC6496724/>

症例

50歳の女性が膝の負傷で私のもとを訪れたが、非常に具合が悪そうだった。彼女はステージIIの子宮頸がんを診断されており、非常に落胆していて、化学療法を受ける予定だった。私は彼女に5日間のイベルメクチン治療を行った。彼女の親族から報告があり、彼女は大幅に改善し、食欲が戻り、家事をこなすことができるようになった。



卵巣がん 卵巣がんは非常に悪性度の高い腫瘍で、ほとんど臨床症状を示さない。がんが領域リンパ節に広がったステージIIの患者の5年生存率はさまざまな国ごとの統計があるが、40%台から60%台とされる。イベルメクチンは、卵巣がんにおいてKPNB1（細胞核と細胞質の間でタンパク質を輸送する役割を持つタンパク質、核輸送因子）依存のメカニズムを通じて細胞周期をブロックし、アポトーシス（細胞の自死）を誘導することができる。また、イベルメクチンとアポトーシスを誘導する抗がん剤パクリタキセルは卵巣がんに対して相乗効果を示し、動物実験では併用治療が腫瘍の増殖をほぼ完全に抑制した。



<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC7365114/#bb0295>

呼吸器系がん 鼻咽頭がんは、鼻咽頭粘膜の上皮細胞から生じる悪性腫瘍で、その発生は地域性および家族性があり、ヒトヘルペスウイルス4型であるエプスタイン・バーウイルス（EBV）感染が密接に関連している。鼻咽頭がんの治療薬をスクリーニングした研究では、イベルメクチンが正常な胸腺細胞に対して毒性を示さない濃度で、マウスにおける鼻咽頭がんの発生を著しく抑制することが確認された。



症例

米国の腫瘍専門医が、オンラインサイト・ポッドキャストを通じて私のことを知り、がん治療におけるイベルメクチンの使用法について尋ねてきた。私は彼女にイベルメクチンの使用経験と投与量を伝えた。約6週間後、彼女から私に届いたメッセージによると、病院から末期の鼻咽頭がんを診断され、自宅に戻された7歳の少年にイベルメクチンを使用したところ、数週間ではがんが大幅に縮小し、呼吸や睡眠が改善したという。彼女は少年が完全に回復するだろうと確信していた。